

都立 第五福竜丸展示館ニュース

2016.11.01  
No.396

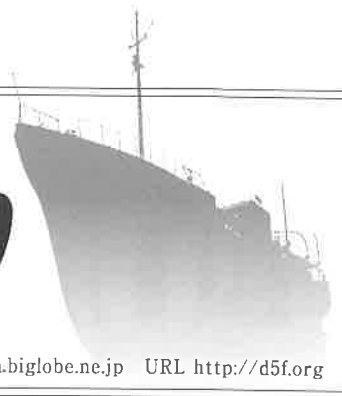
(11・12月号)

# 福竜丸だより

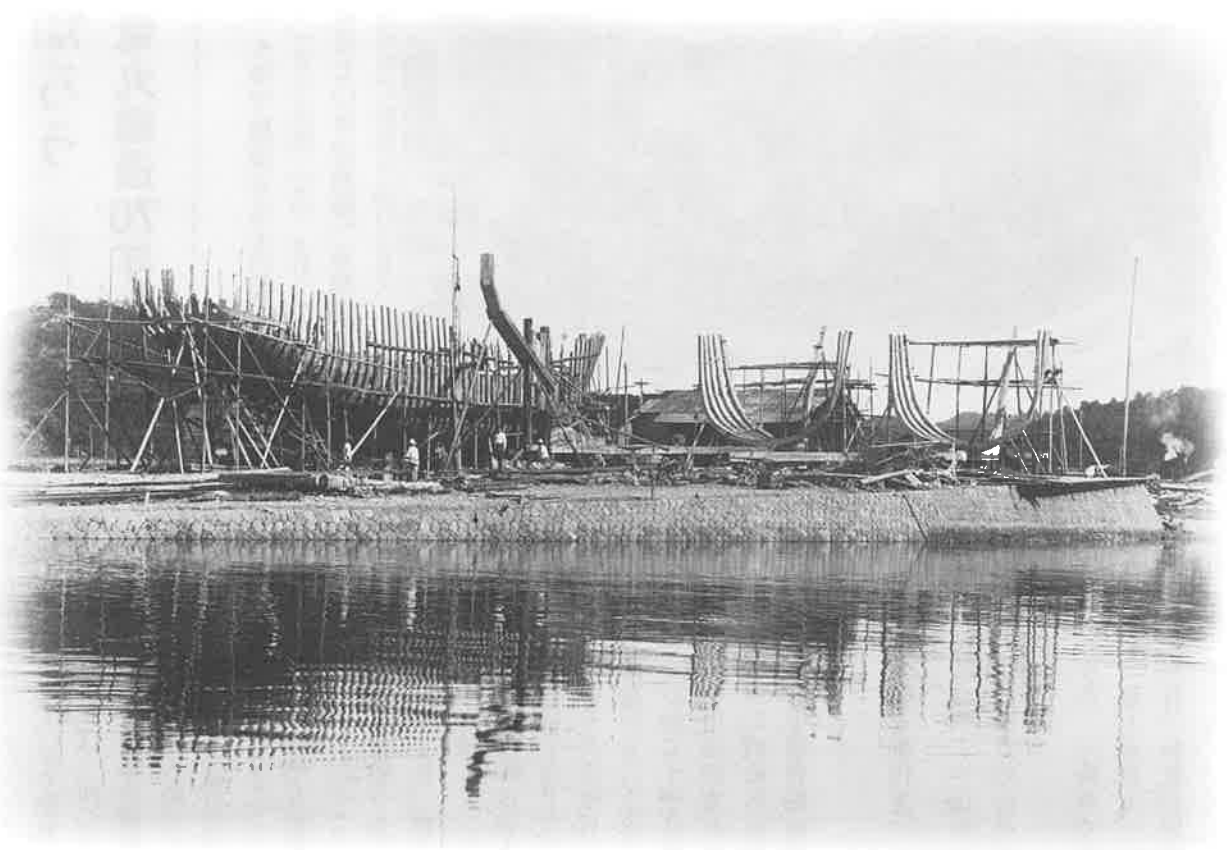
発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会

連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



第五福竜丸建造70年——船を造った古座造船所。戦時中の木造船建造の貴重な写真（提供 串本町）



## 第五福竜丸建造70年

### この船の名を告げあおう

思い起こします。

\*

第五福竜丸展示館の横に置かれていたマグロ塚を築地市場跡に移設しようとの署名がとりまわっています。

マグロ塚は元乗組員の大石又七さんが、展示館や学校に呼ばれて体験を話す中でよびかけ、一〇円募金にたくさんの小中学生が応えて作られたものです。太平洋の南の海の色と荒波を思わせる伊予の青石で重さ二トンの石碑です。

碑の表には、「マグロ塚」と刻まれただけです。後世の人びとに「なぜマグロが捨てられなければならなかったか」を問いかけてほしいとの願いからです（連記事5め）。

平和博物館研究で著名な英ブラッドフォード大学のピーター・バンデン・ダンジェン教授が二〇〇六年に来館しマグロ塚を見て、「ヨーロッパには世界大戦で犠牲になった動物の記念碑が多くあるが、これも核の戦争の犠牲のメモリアルだ」と語られたことを

八月下旬から行われてきた「旧ソ連・セミパラチンスク核実験場写真展」には、「初めてソ連の核実験被害の事を知りました」「核の開発と被害は隣合わせと感じた」という感想が寄せられ、熱心に見入る来館者の姿が多数見受けられました。展示は一〇月末に終了します。

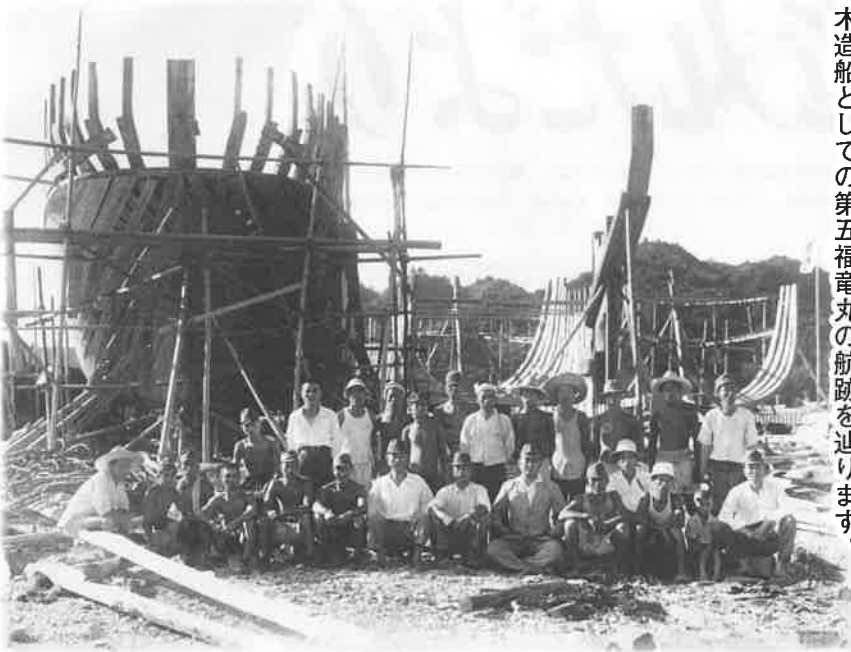
秋の修学旅行、行楽シーズンの清々しい気候に誘われて夢の島公園への来園者も展示館への来館者も増えていきます。「来年は建造七〇年で希少な木造船なんです」との話に小学生はあまりピンとこないようですが、引率の先生や一般の見学者からは感嘆の表情が伝わってきます。第五福竜丸の歴史をたどる「建造七〇年記念特別展」が十一月九日より始まります。遺された船の意味を多くの人びとと共に考えたいと願います。

## 特別展

## この船を知ろう

## 第五福竜丸建造70年の航跡

第五福竜丸は二〇一七年で建造から七〇年を迎えます。これを記念して十一月十九日（土）より「この船を知ろう、第五福竜丸建造七〇年の航跡」を開催します。木造船としての第五福竜丸の航跡を辿ります。



戦時中の古座造船所（提供 串本町）

## 古稀を迎えた木造船

第五福竜丸は全長三〇メートルの木造船です。水や燃料、魚などを満載すれば一四〇トンにもなる、当時の木造漁船としては比較的大型の船でした。ビキニ環礁での被災は、水爆の時代の脅威を私たちに伝える重要な役割を第五福竜丸に課しました。これにより、第五福竜丸は平和を願う多くの市民によって守られ、保存されることになりました。

第五福竜丸は二度の改造と三度の改名を経験しました。歴代の所有者もその都度代わり九個人・団体に及びます。そのため同一の船ですが時代によって船名や用途が変わりました。展示館に納められた「第五福竜丸」は練習船時代の姿なのです。

## カツオ船「第七事代丸」

最初の展示バナーではカツオ船として建造された時代を取り上げます。

「第五福竜丸」の前身であるカツオ船「第七事代丸」は一九四七年三月、和歌山県古座町（現・串本町）で進水し



マグロ船となった第七事代丸

ました。古座川の中州に位置する古座造船所（植村直太郎社長）は復員してきた青年で活気に満ちていました。

船は、製材部門、造船部門、事務部門など合わせて二〇人を超える人びとによって、三重県七里御浜から切り出したマツ、スギ、ヒノキなど一〇〇本相当の木材を用い建造されました。

敗戦後間もない日本は慢性的な食糧難で、特に動物性のタンパク源が不足していました。しかし戦時中の徴用や空襲で漁業は打撃をうけ、魚を獲ろうにも漁船がないというような状態でした。この時代、全国各地で木造漁船が数多く建造されたのです。

第七事代丸は神奈川県三崎港を母港とし、カツオ漁に従事しました。カツオ船特有の突き出した舳先やデッキに漁師が立ち、釣り竿で一匹一匹吊り上げる一本釣り漁で、数年にわたり好成績を上げました。

## マグロ船「第五福竜丸」

一九五二年四月、サンフランシスコ講和条約の発効と同時にGHQによる漁場制限が撤廃され、遠洋漁業が解禁になりました。それに先立つ一九五一年秋、第七事代丸はマグロ船へと改造されました。舳先は切り取られ、魚艙は四槽に改造、甲板には延縄を巻き上げるラインホラーが取り付けられました。「第五福竜丸」と名前を変えるのは一九五三年三月のことです。焼津市の西川角市氏が船を買取り命名しました。

第五福竜丸としての最初の遠洋航海は六月一〇日に出生、ニューギニア北東からピスマーク諸島西の海域でメバチマグロを狙い約四五トンの漁獲を上げました。続く三度の航海ではインドネシアやフ



マグロ船 第五福竜丸

イリピン、パラオなどの海域で操業しています。一九五四年一月二日出港の第五回航海で、福竜丸は水爆実験に遭遇しました。この航海を最後に、再び遠洋マグロ船として出漁することはありませんでした。

### 練習船「はやぶさ丸」

福竜丸の歴史の中で、この船で航海した経験を持つ人がもつとも多いのが練習船「はやぶさ丸」の時代です。水産大学卒業生から寄贈された実習の航海日誌など貴重資料を展示します。

焼津に帰港した第五福竜丸は機密保持や研究資料とする



はやぶさ丸と実習生 (提供 中田達也)

目的で国が買い上げ、東京水産大学(現・海洋大)で二年間の放射線検査を行いました。船上で金魚の飼育や、朝顔の栽培が行われ、生体実験によって残存する放射能の測定が行われました。

一九五六年五月、安全が確認されると、練習船へと改造されることになり三重県の強力造船所へ回航されました。造船所へは船名を隠して接岸したものの、「第五福竜丸修理」のニュースは新聞にも掲載され、周辺の住民たちに不安が広がり造船所や職員に近づかず、しばらく銭湯に入るのも断られたといわれています。

甲板は張り替えられ、操舵

室などの船橋も鋼鉄製になりました。魚艙の一部を残し学習室へと変わり、船体は白く塗り替えられ、船名は「はやぶさ丸」とされました。はやぶさ丸は以後一〇余年、千葉県館山を拠点に学生の演習航海・実習船として使われました。

### 保存・展示へ

一九六七年三月、はやぶさ丸は廃船処分となりました。木造船の耐用年数は一五年から二〇年といわれます。はやぶさ丸は廃船時、建造から二〇年が経過していました。船体は腐化することを条件に解体業者に払い下げられ、エンジンや機械類などは売り払われ、船体は業者間を転々とし



夢の島は船の墓場とも呼ばれた

夢の島に繫留・放置されました。当時、夢の島は一四号埋立地と呼ばれるゴミ処分場でした。はやぶさ丸はゴミに覆われた夢の島の岸壁で静かに傾き、沈みかけていました。

「夢の島の第五福竜丸」が報道されると、地元江東区の人びとの中から福竜丸保存のための取り組みが始まりました。ゴミの中で傾く一四〇トンの木造船をどうすれば保存できるのか、具体的な方策も見えない中、人びとは板切れ一枚でも残したいという思いで取り組んだといえます。

一九六八年三月には東京都の美濃部亮吉都知事が保存への協力を表明、翌年の七月には保存委員会が立ち上がり保存に向けた具体的な方策が取

られました。老朽化した船体は何度も沈没の危機に遭いながらも、保存運動は徐々に広がりしました。一九七五年九月には保存の声をうけて、東

京都によって展示館建設工事が着工、一九七六年六

月に開館に至りました。

展示では保存運動で普及されたバッジや呼びかけ文などを展示、来館者から質問の多い船の陸上固定や展示館建設作業の工程を図解します。

### 保存の意義

第五福竜丸の持つ歴史的意義は水爆実験被災に限られませんが、平和を願う人びとの「あかし」の船として保存されることとあわせて、戦後の食糧難の時代に建造され遠洋漁業に従事した、現存する木造船としての価値が再確認されています。

通常、私たちが日常生活を送るための道具の多くは用が済めば廃棄されます。漁船もその例にもれません。大きな木造船が保存されている例は世界でも稀です。現在では造船技術も失われつつあり、船大工の数も減少しています。貴重な船の資料である第五福竜丸を産業遺産として位置付けていくことも大切だと考えています。

特別展は十一月十九日(土)から二〇一七年三月二十六日(日)まで開催します。

被爆から70年余～2世として伝える  
兄の気持ちを  
「絵本」に託して  
山田みどり

りました。私が、病気になるといつも自分の被爆のせいではないかと心を痛めておりました。私が三四歳で乳がんになったとき、父はとても悲しんでいました。

長兄は、徴用で広島市内の軍需工場で働いているとき、中学生一年生の次兄は、今、平和大通りと言われているところで「建物疎開」の作業中に被爆しました。

私が「被爆二世」ということばを知ったのは、進学のため上京してからです。そのことばに大変驚いたことを思い出します。

私の生まれた町は、広島市から二五キロも離れた、対岸に世界遺産の宮島を望む瀬戸内海ののどかなところですが、そんな町に住む人びとにも原爆の傷は深く残っています。私の家では父親と二人の兄が被爆しました。従兄弟たちの多くも原爆で亡くなっています。

一九四五年八月六日、父は、当時町役場の職員でした。広島市に落とされた新型爆弾で町の多くの人たちが被害を受けたというので、その救出にその日から一週間広島市に通いました。残留放射能で被爆した父は、被爆後生まれた私への影響をとっても心配してお

それまで、広島で生まれ、高校まで広島で育った私は、自分が被爆者の子であることへの自覚はありませんでした。私を取り巻くまわりのほとんどが、被爆者かそれに繋がる人びとだったからです。被爆者だから被爆二世だからと言っているのは、日々の暮らしが送れなかったのだと思います。

一方で、兄がお見合い相手から被爆者であることを理由に断られたことを「触れてはいけない」こととして子ども



ながらに胸におさめたことや、「被爆者同士の夫婦だから、子どもを作らない」と言っている近所の大人たちの話にそば耳を立てたことなどの記憶が次つぎと蘇ってきました。

二〇〇四年「九条の会」結成の集会で発起人の一人大江健三郎さんが挨拶の中で「被爆者の皆さんが思い起こすのも辛い原爆被害の実相を世界中の人々に証言してきたことが、ヒロシマ、ナガサキ以降戦争で核兵器が使用されなかったことに大きく貢献している」旨を話されました。

そうした活動をされてきた被爆者の皆さんが、高齢化に伴い少なくなっていくなか、被爆者の一番近くに「二世」の私たちにできることは

何か模索しました。

被爆体験のない私に被爆証言はできないけれど、被爆者である父や兄の苦悩と閉ざされた人生を語ることはできると思い「被爆二世のメッセージ」としてまとめ二〇〇五年、一〇年とNPT再検討会議の要請団に参加しニューヨークで訴えました。

その「メッセージ」をコカリナ奏者・黒坂黒太郎さんの奏でる被爆樹コカリナ（広島）の高校生達が大切に保存していた被爆した榎を黒坂さんに託して作られた笛の音色にのせて朗読させて頂き国内外を公演してきました。

昨年、被爆七〇年を機に兄の被爆体験をもとに子ども達に向けて「じろうちゃん」を書きました。

これを絵本にしたいと願い「じろうちゃん」にふさわしい絵を描いてくださる人を探していました。

東京被爆二世の会の仲間と第五福竜丸展示館を訪ねた時、偶然目にしたのが絵本『ほくのみたもの 第五福竜丸のはなし』でした。その絵本を買って帰り、五

歳の孫娘に読み聞かせていたから水爆の爆発の場面で「じろうちゃん」と同じだね」と言ったのです。

「これだ！」、私は、さっそく作者のみなみなみさんに連絡しました。みなみさんは、「じろうちゃん」の文章を読んで下さり、快く引き受けてくださったのです。

こうして絵本『ヒロシマの少年じろうちゃん』は生まれました。

優しいタッチながらも被爆の実相を伝える絵が多くの人たち受け入れられて今、広がっています。

この本をとおして、第五福竜丸の乗組員でビキニの水爆実験の犠牲となった久保山愛吉さんの「原水爆の被害者は、私を最後にして欲しい」の遺志が一人でも多くの子どもの心に伝えられることを願っています。（やまだ みどり／東京被爆二世の会副会長）

\* \*  
絵本『じろうちゃん』山田みどり作、みなみなみ絵 リブロス刊、星雲社発売一〇〇〇円十税。展示館でも購入できます。

# 日本被団協、 結成から60年に寄せて

被爆者の全国組織、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が発足したのは一九五六年八月。ビキニ事件をきっかけに原水爆禁止運動が広がるなか、長崎での第二回原水爆禁止世界大会のさなかに誕生しました。



全国の被団協役員と支援者がなごやかに懇談

その結成宣言には、「私たちは自らを救うとともに、私たちの体験をおして人類の危機を救おう」とあります。被爆者の六〇年の活動はまさにこの決意の実践であったと思います。原爆の惨禍を内外に伝える、国にたいしては被爆者への救済を求めて毎年のように成果を積み重ねてきました。原爆症認定の集団訴訟も大きな成果を生み出してきたのです。

その厚生省（当時）の建物の出入り口横に座り込みテントを張り泊まり込んだことが私の被爆者体験の原点ともなりました。一九七七年四月五日、九日の被団協中央行動で、テントに泊まる五人ほどの被爆者代表の連絡係兼急病時の民医連・芝病院への搬送を担い、原水協の車をテントに横づけし四晩に亘る深夜までの被爆・戦争体験をひざ詰めで何うという貴重な機会となりました。

福竜丸とのかかわりでは、展示館所蔵の久保山愛吉無線長への追悼の寄せ書き（一九五四年九月）に「長崎で原爆にあったものとして：」との田中熙己さんの名前があったことです。当時はヒバクシャであるとは語らなかつた、と話された田中さん。いま被団協事務局長として活躍される田中さんと知己を得てから三五年余りが経ちます。

被団協の六〇周年記念会は、一〇月一二日、盛大に行われました。「核兵器の非人道性」を世界の認識に広げた功績は被爆者運動にあると改めて思いました。（安田和也）

一〇月二十七日で閉鎖、一月から解体される予定だった築地市場の豊洲移転が延期となりました。さまざまな報道を受けて、第五福竜丸が水揚げし、築地に入荷したマグロ類について問い合わせ等が続いています。

一九五四年三月一五日焼津に水揚げされた漁獲物はセリにかけられ、東京、京都、大阪、愛知など各方面に送られました。

東京都衛生局の報告書によると、築地では三月一六日午前五時、中央卸売市場衛生局分室に、荷受会社東京都水産より福竜丸が積載してきたらしい大物魚類二六一貫が入荷したとの連絡があり、メバチ一本、キハダマグロ二本、サメ二八本を隔離、専門家らが集まり対策を協議します。

## マグロと築地

午後一時、科学研究所員と東大・中泉正徳教授、筧弘毅講師が計測器一〇cmの距離で測定したところ、メバチ及びキハダマグロから三・二ミリレントゲン毎時、ヨシキリサメ九ミリレントゲン毎時が検出されました。午後三時、市場の駐車場（現在の正門東側）に長さ六メートル、幅二メートル深さ三メートルの穴を掘り始め、地中埋没作業は午前三時までかかりました。

当時築地の一部は米軍に接収されランドリ工場となっており、この場所は野球場のネット裏付近とみられ、「立ち入り禁止」の立て札右奥の木々は、水神社があった築山の一部と思われる（現在水神社は海幸橋の北側に移築）。



\*写真提供・足達卓治さん（当時、市場衛生検査所勤務）。参考文献・東京都衛生局公衆衛生部獣医衛生課「昭和29年獣医衛生課事業報告別冊（魚類の人工放射能検査報告）」  
\*三・二ミリレントゲン毎時は約三〇・二μシーベルト毎時

連載 ㊹

晴れた日に  
雨の日に

山村茂雄



小学生に説明するボランティアメンバー

こんにちの第五福竜丸展示館の運営を考えると、「ボランティアの会」の活動抜きには語れないと思います。「ボランティアの会」は来館者すべてに展示の説明（五福竜丸の被ばくと水爆被害）をおこ

なうことをモットーとし、実行していることです。

あらかじめ予約申込を受けている小・中学生や高校生など修学旅行・社会科見学等の団体はもちろんですが、一般来館者や市民グループに飛び込みで説明に応じることも増えています。

紅いユニホームを羽織ったボランティアのメンバーは、説明ばかりでなくカウンターで来館者の対応にも当たりま

す。ボランティアの多くは展示館所在地の江東区や隣接の墨田区などの小・中学校を退職した元教師の皆さんです。

\*

「第五福竜丸展示館ボランティアの会」が発足したのは二〇〇一年四月。この年の初頭には、平和協会事務局の体制が刷新されました。新しい世紀を迎えるに前後して、第五福竜丸平和協会では、展示館からの発信をいっそう広げるための諸企画の検討をすすめていました。なかでも若い人たちの対話と交流、課題となったことのひとつは、来館者数の三分の一を占める小・中学生や高校生に

とって、展示館がより「親しめる学習の場」となるためにどんな手立てが必要かという問題でした。来館した生徒たちの滞在時間に見合っ「お話し」などの対応がどうしたらできるか。平和協会の職員は三人です。

この難問を見事に切り開いたのが「ボランティアの会」の発足であり、新事務局と「会」の両者は相まっついくつもの懸案を解決、活動の幅を広げたのです。

展示館四〇年記念誌が記述しています。「ボランティアの中心は、四〇有余年前に船の保存運動に携わり夢の島に通い船体を守った当時の若い教員が定年を迎えて再び福竜丸との関わりが開かれたのである。ガイドとしての研修を重ね、来館学校に二〇分の説明をおこなう。すべての見学校への「お話し」から、市民グループへの対応も広がって、今では年間六〇〇回以上の説明をおこなっている」。

ーの手助けで、船を完成させ、ビニールプールで走らせるー子どもたちの願いをのせる第五福竜丸の船出です。

\*

「第五福竜丸展示館ボランティアの会」の発起人は青木佳子さん、岡本英明さん、遠藤昌樹さんの三人。

青木佳子さんは旧姓古泉さん。この連載でも何度か紹介した第五福竜丸保存運動初期の「江東三羽鳥と一姫」の「一姫」さん、夢の島に近い枝川小学校の教員でした。

岡本英明さんも江東区の小学校の教員。個人的に忘れられない思いがあります。

二〇〇一年事務局メンバーが一新されたころ、退職者として新メンバーの勤務日時のずれが生まれ、その穴を埋める必要が生じました。比較的若手の理事だった私が日常業務に当たることになりました。助っ人として駆けつけてくれたのが岡本さんです。

遠藤昌樹さんは墨田区の夜間中学の教員でした。

「ボランティアの会」に関わるようになったのは、青木佳子さんのお誘いによるもので

す。青木さんは江東の退職教員の会でも第五福竜丸展示館のことをいつも話していました。二〇〇一年三月末で教員生活を終えるというときに声を掛けられたのです。ガイドをどのようにするか、最初は試行錯誤でした。メンバーで学習したり話しあったりしながらガイドの話を組み立てていった」と遠藤さんは話しています。

\*

前に記した日常業務に当たったころ、私も何回か説明に当たったことがあります。「ボランティアの会」発足後、ボランティアさんのお話を小学生といっしょに聞く機会がありました。目線を大切にとはよく言われることですが元教師の方がたの子どもたちをとらえる、たしかな年季、その「話す技」に感動しました。お話の終ったあとの対応もなごやかさをのこし見事でした。ボランティアさんのお話を聞きながら、あらためて第五福竜丸の保存と展示館存在の意義を教えられる思いがしました。（やまむら しば お／協会顧問）

## 久保山忌 一花によせて

を最後にしてほしい」と刻まれた碑に献花し、平和への思いを新たにしました。

久保山忌句会は二二日早朝から参加者が吟行し、紫の竜胆を献花した後、会場を公園内のスポーツ文化館に移した句会では、山村茂雄協会顧問が講演しました。

今年、暦の関係で、久保山愛吉さんの命日に開かれる諸行事が九月二二日、二三日にわたり行われました。長引く秋雨の中、展示館の周りには今年もこの日に合わせるかのように赤や白の曼珠沙華が咲き誇りました。集った人びとは、「原水爆の被害者は、私



ボランティアの会の朗読

「平和を語る第五福竜丸の集い」の参加者は船の前に色とりどりのバラを献花し、歌や紙芝居、朗読劇などを発表しました。「トビウオのぼうやはびょうきです」「ここが家だーベン・シャーン」の第五福竜丸」の紙芝居や朗読劇、夢の島の福竜丸を歌ったオリジナルソング「証の船」(松島よしお作詞・作曲)など、展示館開館四〇年の道のりを参加者全員で考えるひとときとなりました。展示館ボランティアの会は久保山忌などで詠まれた俳句を群読しました。

夢の島マリーナで行われた「築地にマグロ塚を作る会」の集いには、元乗組員の大石又七さんも参加し、マグロ塚の築地設置の取り組みについての意見交流を行いました。築地仲卸の野末誠さんは、第

五福竜丸の漁獲物が埋められたのを目撃したと証言し、現在進められている移転問題についても報告しました。現在マグロ塚移設を求める署名は一五〇〇筆集まったことが報

告されました。

二三日には第三〇回第五福竜丸のつどい(東京原水協など主催)がスポーツ文化館で開かれ、船の保存運動の担い手だった青木佳子さん、エン

ジンの保存に取り組んだ柴田桂馬さんが講演しました。集い前に参加者は、久保山碑に白菊を献花し、核のない未来にむけての努力を誓いました。

### 36回久保山忌句会「船員証」句と作者からの寄稿

#### 愛吉の歯ぎしりの雨柘榴落つ

飯田史朗

チップの上を歩いているような、弾力のある夢の島の土を初めて踏んだときの感触は今も忘れない。四〇年前ゴミの島と言われた頃のこと。

その年の夏、第五福竜丸展が完成したと知り、五歳と三歳の息子を連れ、電車とバスを乗り継いで訪ねた。やっと辿り着いたそこには帆とも見える三角錐状の建物があった。とても暑い日だった。

第五福竜丸の名前を初めて知ったのは小学六年の春。米国の水爆実験で被曝したビキニ事件。鮪漁船が死の灰を浴び、連日新聞を賑わし子どもながら放射能に恐怖を覚えた。

再びその船名を見たのは社

者になった。

会人になって新聞「赤旗」の紙面。しかしそのときはさほど深く受け止めていなかった。だが、間もなく朝日新聞投書「沈めてよいか第五福竜丸」の呼びかけ文に頭をガツンと殴られた気がした。「そうだと殴られた気がした。」「そうだと被曝の証人を無くしてはいけないのだ」と。それから

は労組活動のなかでも意識的に関わった。それ故、展示館完成のニュースで早々に駆けつけた。

新しい楨肌まがだが埋め込まれた船体を撫で、保存運動の成果に感動した。

のちに久保山忌句会に参加するようになり、そして担当者

その展示館が今年、四〇年を迎え記念誌「四〇年のあゆみ」も発行された。それにしても少年時、強烈な記憶となった第五福竜丸を新聞投書で目覚め、さらに俳句を通して深く関わることになった巡り合わせを幸せと思っている。

最近、日本も核武装すべきの動きがあると聞く。広島・長崎・第五福竜丸、福島原発事故と、核の恐怖を体験した日本人として言語道断だ。

今後、世界の核廃絶へ向け、元気に発信しつづけて欲しい。(いいだ しろろ 新俳句人連盟会長)

## 新俳句人連盟結成 70 年

久保山忌句会実行委員会の中心を担う新俳句人連盟が創立 70 年を迎えました。10 月 9 日に記念祝賀会が開かれ、山村茂雄協会顧問、安田和也事務局局長が参加しました。

1954 年「ビキニ事件」に際して、連盟の古沢太穂、橋本夢道、栗林一石路、石原沙人、田原千暉ら多くの俳人たちが作品を遺しています。また第五福竜丸が夢の島に放置されていることが報じられた当初にも、いち早く吟行を行い、その場が NHK ドキュメンタリー『廃船』（1969 年 3 月 22 日放送）にも映し出されています。

祝賀会では現代俳句協会、俳句結社「港」の代表と安田事務局局長がお祝いの挨拶しました。

## 高知の元漁船員ら国を提訴

米の核実験により被ばくしたことを認めず、過去の調査結果を長年開示しなかったため、米国への賠償請求をする機会が奪われたなどとして、漁船の元乗組員と遺族 45 人が国を相手取り、5 月 9 日高知地裁に提訴しました。7 月 1 日、10 月 13 日に公判が開かれ、国側は時効で請求権は消滅したと主張していますが、原告側は 2014 年 9 月の厚労省文書開示まで「不法行為」を知り得なかったと主張しています。

米の核実験により広範囲な「死の灰」が降下するなかで操業した多くの漁船員の被災の実相について、いっそうの解明と記録が急がれます。第三回口頭弁論は 12 月 22 日です。

## BOOK REVIEW



◆広瀬浩二郎編（青弓社）

『ひとが優しい博物館 ユニバーサル・ミュージアムの新展開』

2015 年 11 月に国立民族学博物館で開催された公開シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアム論の新展開」の報告書。視覚に依存する従来の博物館や現代社会の在り方を問い直す、各地の美術館・博物館で試みられている展示や取り組みなどを紹介しています。昨年第五福竜丸展示館で行われた真下弥生さんによる「触察ワークショップ」の様子も報告されています（『福竜丸だより』388 号参照）。障がいの有無にかかわらず「誰もが使える（ユニバーサル・デザイン）」という概念と第五福竜丸展示館の今後の在り方を示唆する一冊です。

◆早川紀代・江刺昭子編（御茶ノ水書房）

『原爆と原発、その先 - 女性たちの非核の実践と思想』

総合女性史学会員による論文集。第一部は広島・長崎、ビキニ水爆被災の当事者と原水爆禁止運動に取り組んだ人びとについて、第二部は原子力発電所建設に反対した人たちと地域について、第三部は原発をめぐる最近の新聞報道を分析しています。第一部には久保山すずさん（『第五福竜丸のビキニ被災と母親大会・久保山すず』小和田美智子）第五福竜丸乗組員・大石又七さん（『被ばくと男性』石崎昇子）、協会役員を歴任された草の実会の斎藤鶴子さん（『非核の世界をめざして』永原和子）についての論考が紹介されています。

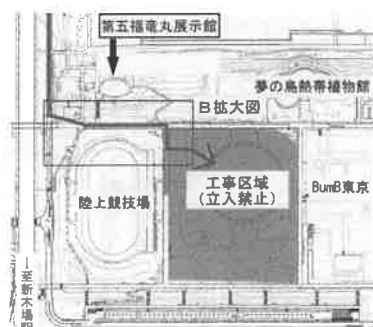
原爆と原発、その先

女性たちの非核の実践と思想

早川紀代・江刺昭子編



## 夢の島公園工事のお知らせ



前号でもお知らせしましたが、夢の島公園が 2020 年東京オリンピック・パラリンピックのアーチェリー会場となるため、熱帯植物館前の多目的コロシアム(すりばち状のひろば)の「盛土工事」が始まっています。

展示館そばの道(太線部分)を運搬トラックが通行するため、歩行者通路との間をフェンスで仕切り、警備員が配置され安全対策を講じています。